大草谷津田いきものの里 自然観察会

タネの旅立ち

遠藤登志子（千葉市）

日　時：2016 年 11 月 20 日(日)10：30～12：00　天候：晴れ
参加者：26 名(大人 14 名、子ども１２名)
担当指導員：松本美千代、遠藤登志子

前日が雨だったため、朝は道も梢も濡れていた。タネの旅立ちにはよい条件ではないが、晴れて暖かくなり、タネの観察にはよい日となった。

タネの拡散作戦について興味をもって観察しながら利用してもらうため、、①風散布 ②水を利用　③自力で弾けて　④動物に運ばれて(くっつきむし・鳥・動物)に分類した、指導員の松本さん作成のミニブックを配って出発する。

まず、駐車場近くの斜面で、子どもたちにカタバミの鞘に触れるとタネが弾けることを体験してもらう。未熟な白いタネは鞘を押すと出てきたが、弾けるのは「茶色のタネ」との声があがる。続いて、ムクノキの熟した実を試食し、鳥が好んで食べること、そしてタネは消化されずにあちこちに排泄されることを伝える。

林の入口にあるヒノキの球果を観察して、林内に入ると鳥が被食散布したタネから育ったものの見本市のよう。シュロ、アオキ、ヤツデ、センリョウ、マンリョウ、ネズミモチ、ツタ、ムラサキシキブ、ツルウメモドキなどが見られた。また、ヤナギバイノコヅチやケチヂミザサ、ミズヒキ、ヌスビトハギなどのくっつきむしも林内や道に沿って背を伸ばしている。ヌスビトハギは毛がカギになっていると話すと子どもたちも、お母さんも腕をのばす。触れると数個がみごとにくっつき、目を丸くする。スギ林にあるサネカズラは、1 週間前の下見では緑色だったのに、赤い鹿子になっている。「和菓子の鹿子のようでしょう?」と話したら、女の子が「私の名前と同じ!」と大喜びだった。
ケヤキの大木前でタネは小さな葉を付けた枝ごと、風で飛ぶことを話したが、濡れている散布体では実験できなかった。

谷津田に出るとイナゴ、オンブバッタ、カナヘビ、コカマキリ、クロコノマチョウなどが登場して、子どもたちの動きが変化した。水路ではオニグルミとジュズダマを子どもと共に流す。あちこちにひっかかりながら無事流れていく様子を大人も子どもも楽しんで見たが、水散布は意外という人も何人かいた。この後、カエデの翼果を大人に飛ばしてもらい、よく回転して落ちるのを観察した。

感想を聞くと、男の子は、「カナヘビがひなたぼっこしていたこと」と言っていた。
大人は・実が多様なのに驚いた。・草木の戦略がすごい。・子どもが楽しそうでよかった。・紅葉も楽しめた。などの声が聞かれた。